



## 県内一のだるま市



だるま市と言えば、今井の毘沙門さん。毘沙門天大祭は毎年旧暦の1月7日～9日に開かれ、ことしは2月12日～14日に、にぎやかに行われました。

卵ぐらいの豆だるまから幼児の背丈ほどもある特大だるままで、並んだだるまは数10万個。約50万人の人出となりました。これは、全国でも群馬県高崎市のだるま市に次ぐもので、県内ではもちろんナンバーワン。

ちなみに、だるまと言えば何でも同じかと言えば大違い。毘沙門さんのだるまにはひげつきだるまがありますが、これは、全国的には珍しい部類のだるまです。

毘沙門さんが終わると、富士市にはもうすぐ春がやってきます。



森和歌子さん

吉原二中二年生の森和歌子さんは、昭和六十三年度の防火作文コンクール中学生の部で、市長賞に輝きました。

受賞作品は「我が家の中火」。近くであつた火災の事をきっかけに、両親から聞いた恐ろしい体験を上手にまとめたものです。

「先生に言われて締め切りギリギリに書いた」とのことですが、「ふだんから文章を書くのが好き」というだけあって見事なもの。「自分が最後に寝るときは、必ず火の元を確認しています」と防火意識も本物です。

久沢南の勝又たまさんは、二月十七日満百歳の誕生日を迎えました。この日、渡辺市長を初め市の関係者がお祝いに訪れ、長寿祝金を贈りました。

勝又さんは数年前から寝たきり状態ですが、目も耳もよく、会話もしつかりしています。子供は六人もうけ、孫が十六人、ひ孫が三十四人、やしやごが八人います。

「いつまでもお元気で」と言う市長に笑顔でうなずきました。

久沢南の勝又たまさんは、二月十七日満百歳の誕生日を迎えました。この日、渡辺市長を初め市の関係者がお祝いに訪れ、長寿祝金を贈りました。

琴の演奏やウルトラクイズ、もちつきなど、いろいろな催し物が行われ、地域の交流を深めました。

二月十九日（日）、天間の天満宮を会場に、天間地区をあげて「梅まつり」が開かれました。

これは、地域の守り神である天満宮に、一昨年、たくさんの中木が植えられたのをきっかけに始められ、今回が二回目。梅の里として、夢とロマンのある街づくりを目指そうというものです。



盛大に行われた梅まつり

## 吉一中の森和歌子さん

## 防火作文で市長賞



市長がお祝いを……

## 第二回梅まつり

## 天間を梅の里に……



## 太鼓で国際交流

### 原田清流太鼓保存会の皆さん

原田地区の子供たちで、昭和六十二年三月に結成された「原田清流太鼓」の皆さんは、春休みに米・ワイントントン州・バンクーバー市に招かれて公演に行きます。

今回は、熱のこもった練習場におじゃました。



△張り切っている皆さん

これまで原田清流太鼓の特徴といえば、湧き水が清流となって流れるようなばちさばきでしたが、訪米を機会に「源平呼子太鼓」という新曲も用意しました。この曲は源平の富士川の合戦をイメージしたもので、ほら貝を使用するなど新分野を開拓しています。

そういうわけで、出発が迫った現在、練習に一段と力が入ってきています。会長と渡辺市長に招待状も来ていました。

そういうわけで、出発が迫った現在、練習に一段と力が入ってきています。会長と渡辺市長に招待状も来ていました。

その心配は杞憂でした。原田清流太鼓は、米・ワイントントン州の文化界で大きな注目を集め、多くの人々から歓迎されました。特に、米・ワイントントン州の太鼓文化に対する理解が深まり、国際交流の輪が広がりました。